

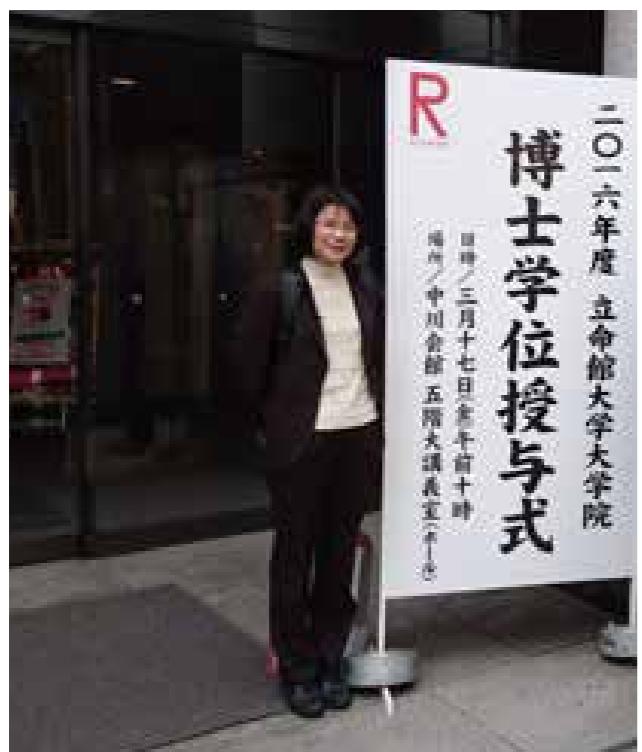
## 子どもを変え、学校を変える 教育指導法の開発

同志社女子大学現代社会学部 教授

梅垣 明美

私の考える  
博士力

よりよい社会の創造に  
向けた行動力



let's access



この QR コードを読み取ると  
博士学位論文に  
アクセスできます

学位授与の年月	2017年3月
学位論文のタイトル	体育における社会的スキルの指導モデルに関する研究：転移に着目して
指導教員名	大友 智
研究領域	スポーツ教育学・体育科教育学
キーワード	責任学習モデル・チームづくり・ 学習理論・認知主義・社会構成主義

学位取得を  
目指した  
きっかけ

研究 研究の集大成として、博士論文を書きたいと思っていた頃、立命館大学スポーツ健康科学研究科の設立を知った。スポーツ教育学・体育科教育学領域の第一人者である大友智教授がおられることから第2期生として入学した。それは、理論に重きを置いた体育授業研究と実践に重きを置いた体育授業研究の両方から脱却するためであった。「理論なき実践は空虚であり、実践なき理論は無謀である」(ドラッカー)という言葉がある。大友智教授は、変数が統制された実験室ではなく、変数の統制が難しい体育授業を対象に、科学的なデータの収集・分析を日本で誰よりも先駆けて行っていたからである。

在学中

学 校を変え、子どもたちにより豊かで幸せな生活を保証するため、関西から関東、九州にまで出向き、体育授業の改善に取り組んだ。日々の指導に疲弊していた先生方が活力を得、うつむいていた子どもたちに笑顔が戻った時の喜びは忘れられない。人を変えてこそこの研究であると強く感じた。大友ゼミでは、現場を対象とした研究だけが求められたのではなかった。現場に適用する方法論について、精緻に理論構築することも求められた。「理論と実践の統一」という哲学に貫かれていた。ここでの学びを通して、確実にスキルアップを図り、研究力、行動力ともに向上した。在学中に科学研究費基盤研究Cに採択され、Information about the Japanese society of Sport Education conferenceにおける招待講演（2013年）の機会も与えられた。私は、大学に在職し、業務を行いながら学んだが、様々な配慮があり博士論文提出まで困ることはなかった。

現在

働 きながら学んでいたが、勤務校での講義内容の質が明確に高まった。大友教授からのご紹介で学習指導要領執筆の先生方と交流できること、最新の情報を得ながら研究できたことは大きな恵みであった。

2021年4月に、14年間勤めた大阪体育大学から同志社女子大学へ異動した。定年退職をあと数年に控えて新たな可能性に向けた旅立ちを決心できたのは、立命館大学での学びがあったからである。学会活動としても、2015年以降、日本スポーツ教育学会の理事に、2019年からは日本体育・スポーツ・健康学会（旧日本体育学会）国際誌 IJSHS 編集委員に就任した。2021年4月には日本スポーツ教育学会の編集委員長に、同年6月からは日本体育・スポーツ・健康学会の代議員に就任することが決まっている。このように社会で活躍できることは、大友ゼミで学んだ大きな成果である。

将来像

近 年、非認知的能力への注目が高まっている。新たに開発した指導モデルは、子どもの非認知的能力を高める効果が認められる。アメリカで開発された既存の指導モデルの限界を示し、それを超える指導モデルを開発した。非認知的能力を高める指導モデルとして、日本だけでなく世界に向けて発信していきたい。

子どもたちの笑顔と豊かな未来社会は立命館から